



神奈川支部報

神奈川支部報 第27号

発行日：2023年12月1日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若草台2-58 込田方

来年の全国支部懇談会は、神奈川支部にて開催

来年の全国支部懇談会は、神奈川支部により下記の通り開催されることが決定致しました。神奈川支部会員の方々には、スタッフとしてのご協力を宜しくお願い申し上げます。

公益社団法人 日本山岳会

第37回 全国支部懇談会のご案内

春の湘南平・三浦アルプス・鎌倉をお楽しみください

全国の会員と交流を深め、日本山岳会の活性化と、より一層の発展を図る。

主 管：公益社団法人 日本山岳会 神奈川支部

期 日：令和6年（2024年）5月25日（土）～26日（日）

宿 泊：グランドホテル神奈中 平塚（JR 平塚駅南口徒歩2分）

〒254-0811 神奈川県平塚市八重咲町6-18 TEL:0463-23-2555

<https://www.grandhotel-kanachu.co.jp/hiratsuka/index.html>

参加資格：日本山岳会会員、準会員および会友（予定人数 150名）

参加費用：20,000円（宿泊、夕・朝食、26日弁当）

申込期間：令和6年1月9日（火）～令和6年2月15日（木）

支部単位での一括申込みでお願いします。

（注）今回は都市での開催のため、出来る限り公共交通機関を利用して参加してください。特に2日目の鎌倉・逗子方面は交通混雑が激しい上に駐車場の確保も難しいです。止むを得ず、車を利用される場合には事前にお知らせ願います。

日程

1日目：令和5年5月25日（土）

12:30～ 受付開始（ホテルにて）

13:00～ バスにて湘南平に順次出発

15:00～ 岡野金次郎碑前祭

16:00～ 湘南平出発

18:30～ 夕食・懇親会

22:00 消灯

2日目：令和5年5月26日（日）

6:30～ 朝食

8:00～ 交流登山等に出発



仙元山頂上付近からの富士山・江ノ島

①登山A：三浦アルプス

(健脚コース：定員 40 名で先着順)

JR 逗子駅(バス)⇒仙元山⇒乳頭山⇒JR 田浦駅(約 7 時間 15:30 解散予定)

*ロングコースでアップダウンも多く体力を要します。荷物を預けられるのは、逗子駅のコインロッカー(数に限りあり)のみですので、ご注意願います。

②登山B：鎌倉大仏ハイキング

江ノ電長谷駅⇒鎌倉大仏⇒源氏山⇒JR 鎌倉駅(約 3 時間 13:00 解散予定)

*荷物を預けられるのは、鎌倉駅のコインロッカー(数に限りあり)のみですので、ご注意願います。

③自由行動 小田原・湘南・江の島・鎌倉観光など

(注) 登山 A または B への参加は、山岳保険加入が必須です。

岡野金次郎氏とは

平塚市湘南平には、岡野金次郎碑の横に下記のような説明板が立っています。

「岡野金次郎は明治 7 年(1874 年)、現在の横浜市保土ヶ谷区で生まれました。後に日本山岳会初代会長となる小島烏水とは、明治 27 年の徴兵検査で出会いました。

明治 35 年(1902 年)、岡野と小島は日本人登山家として初めて槍ヶ岳への登頂を果たしました。その翌年、岡野らは自分たちより前に槍ヶ岳に登ったウォルター・ウェンストンと出会い、日本にも山岳会をつくることを勧められます。これが日本山岳会の設立につながりました。

昭和 15 年(1940 年)、平塚に移り住んだ岡野は、昭和 20 年に戦災に遭い、平塚を離れますが、昭和 28 年には再び平塚に戻ります。そして、昭和 33 年に亡くなるまで、平塚に住み続けました。

富士山が好きだった岡野は、散歩に出かけては平塚海岸や八幡山から富士山を眺めていたといわれます。

平成 17 年(2005 年)3 月 平塚市」

岡野金次郎碑前祭とは

このように岡野金次郎氏は、日本における近代登山の先駆者であり、日本山岳会の設立に際しても多大な功績のある恩人です。

そこで、日本山岳会神奈川支部では、岡野金次郎氏の業績を讃え、第 1 回岡野金次郎碑前祭を全国支部懇談会の初日に平塚市湘南平で開催することを計画しました。ちなみに来年は、ちょうど岡野金次郎生誕 150 周年にあたりま

す。現在、岡野家のご子孫を含め、平塚市関係者の方々、日本山岳会の会員などが参列し、氏の功績の紹介や碑前に献花などのセレモニーを行う予定です。



湘南平にある岡野金次郎氏の碑

かながわ山岳誌プロジェクト報告

「かながわ山岳誌」の出版 間近に!!

神奈川支部設立記念事業としてスタートした「かながわ山岳誌」プロジェクトは、6年の歳月をかけて県内のすべてのピーク（立ち入りと通行が禁止となっている踏査点を除く）とこれに関連した峠を踏査し、今年5月3日に終了した（支部報第25号参照）。一方で、報告書を山と溪谷社から出版することになり、今年に入って編集作業に本格作業に取り組み、10月で入稿を完了し、現在初稿の校正を行っているところである。目次は以下の通りである。

まえがき（支部長、プロジェクトリーダー）

第1章 概要

- 1.1 目的
- 1.2 対象とした山（ピーク）と峠：踏査ポイント
- 1.3 踏査コースの設定
- 1.4 踏査実施概要

第2章 神奈川県山岳地の特徴

- 2.1 地形・地質からみた特徴：平田大二（県立生命の星・生命博物館館長）
小仏、丹沢、箱根—神奈川の山の生い立ち
- 2.2 気象からみた特徴：猪熊隆之（気象予報士、(株)ヤマテン社長）
かながわ山域の気象からみた特性
- 2.3 植生からみた特徴：勝山輝男（県立生命の星・地球博物館館元学芸部長）
- 2.4 生息動物からみた特徴：山口喜盛（県立生命の星・地球博物館外来研究員）
- 2.5 山岳宗教からみた特徴：鈴木正崇（慶應義塾大学名誉教授）
相模の山岳信仰と修験道
- 2.6 山名・峠名の特徴：砂田定夫

第3章 踏査記録と文化情報

- 3.1 東丹沢地域：厚木、伊勢原、大山、上溝 18 コース
- 3.2 西丹沢通域：駿河小山、中川、御正体山、山北 20 コース
- 3.3 北丹沢地域：青野原、大室山 16 コース
- 3.4 箱根地域：御殿場、関本、箱根 16 コース

- 3.5 鎌倉・三浦半島地域：浦賀、鎌倉、戸塚、三浦三崎、横須賀 9 コース
- 3.6 湘南地域：小田原南部、小田原北部、秦野、平塚 7 コース
- 3.7 県北地域：五日市、与瀬 8 コース
- 3.8 横浜・川崎地域：原町田、溝口 2 コース

付録

1. 山名・峠名の由来
2. 踏査点一覧（50音順）

あとがき

第3章では、踏査記録だけでなく、各地域の古事来歴・伝説などを中心とした文化情報を記載している。即ち、本書は神奈川県の山域を総合的に俯瞰することを目的としている。

発刊は1月末を予定している。定価は税込みで2,200円の見込みである。なお、支部会員には1冊を無料で謹呈することになっている。さらに、これとは別に購入を希望される会員には著者割引で、税・送料込み1冊2,000円で販売する。申し込みや送金先などの詳細は決まり次第お知らせする。

「かながわ山岳誌」出版記念講演会の開催について

来年1月の「かながわ山岳誌」出版を記念して、次のような講演会を開催します。

日時：2024年3月23日（土）13時から

場所：未定（横浜市内を予定）

講師：萩原 浩司

（テレビなどでお馴染み山の編集長）

猪熊 隆之

（気象予報士、ヤマテン社長）

かながわ山岳誌の執筆・編集者

定員：150名、参加費は無料としますが事前申し込み制とします。

年明けに詳細を発表し、申し込み受付を開始します。

（文責：森 武昭）

古道シリーズ

相州大山道を歩く

—大山道標を巡る旅—

葉上徹郎

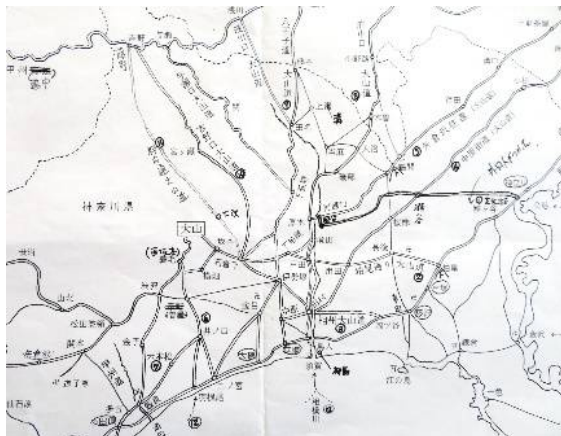
【1】はじめに

「山岳古道 120 選」プロジェクトにおいて大山参詣道を調査する機会に恵まれたが、山岳道だけではなく大山に至るまでの道「大山道」や「大山道標」にも目を向けてみたい。路傍に残された道標を訪ねながら歩くことは興味深い。

江戸時代から「大山詣り」の参詣者を見守り続けてきた道標は、道路整備、宅地開発や経年劣化によって廃棄、風化したものも多いようだ。しかし今でも地元の人々によって守られ大切に保存されてきたものも多く、地域の「守り神」的存在になっているようでもある。

1. 各地からの大山道

大山道は、関東一円から大山に向って集中している。下図は、「大山詣り」著者川島敏郎氏に頂いた地図である。これによると武蔵、甲州、



相州等からの陸路のほか、いくつかの港も起点になっていることから「海路による大山道」も存在していたことがわかる。

大山道が集中する伊勢原市下糟屋、石倉橋を時計の中心とすれば、丹沢山塊のある8時から11時の方向を除き、全方向から参詣道が集中している。県内においては、これら「大山道」がある一方、鎌倉に通じる「鎌倉道」も併存しており、横と縦の糸が交差する様相を表していることも興味深い。大山道を歩いていると鎌

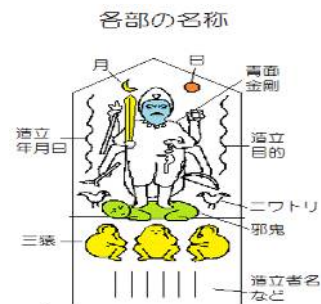
倉道との交差点に「かまくらみち」の道標を見つけることもできるだろう。

2. 大山道標

大山道には多くの道標が設置され、現存しているものも多い。保存関係者の尽力へは頭が下がる。大山道標は様々な種類がある。庚申塔、不動（大山不動）明王像、地神塔等が道標を兼ねている。その他阿弥陀如来、馬頭観音 出羽三山供養塔等の石塔がみられる。中でも庚申塔※が多く、青面金剛が彫られたものが多い。

※庚申塔 道教に由来する庚申信仰に基づき建てられた石塔。60日毎に巡ってくる庚申(かのえさる)の日に、寝ずに過ごすため、夜通し歓談、飲食等を行うことから娯楽の少ない農村部で特に広まったのだろう。

代表的なものは、次の図にある青面(しょうめん・せいめん) 金剛石塔である。



《青面金剛》



《長後庚申塔》

上の図、写真のとおり青面金剛は、六本の腕があり、その下には「見ざる 言わざる 聞かざる」の三猿が彫られているものも多く、邪気を踏みつけているものもある。右の写真は、長後市民センターの一角に保存されている庚申塔であるが、青面金剛が左手に小さな子供あるいは裸の女人の髪の毛を掴んでぶら下げている。このぶら下げられている子供あるいは女人は「ショケラ」と呼ばれているようだ。石塔の側面等には、行先、街道名等道標としての要素が記されている。次回以降は、大山道のうち残存道標が多い柏尾通り・大山道の様々な道標たちに会いに行こう。(つづく)

山行報告

津久井城

城跡ハイキング

令和5年9月9日(土) 曇

城跡ハイキングは今年の新規事業として実施するのですが、参加者は支部会員だけではなく、一般公募いたしました。応募者17名(その後、体調不良等で抜ける方が現れ、当日7名)。

過去2回は雨天中止となり、今回ようやく実施することができました。

JR橋本駅に9時45分に集合。天気予報では雨が上がるはずなのに、小雨が降っていました。10時15分の三ヶ木行きバスに乗車する予定でしたが、道路混雑のため15分遅れの10時30分に出発し、11時10分津久井湖観光センター前で下車。津久井湖観光センターの屋根のある休憩場所で「城跡ハイキング開始セレモニー」を行い、渡邊さんの司会のもと、込田支部長のあいさつ、中島による概要説明を行いました。

11時30分にセンターを出発し津久井城を登り始めましたが、私たちの出発に合わせたかのように雨があがり、ほっとしました。ゆるやかな湖畔展望通路を進み、花や木々の名前を教え合ったり、わからないものは渡邊さんに教わりながら楽しく歩き、途中で山頂から麓まで続く堅堀も見え、12時に展望デッキに到着。しばし休憩。前方の樹木が邪魔して、絶景とはいかず。12時10分に登山道に入り、しばらくして道が左折して急になる手前で休憩。ヒルがいて皆なでヒルチェック。急な道をゆっくり登り、ようやく尾根に上がり、階段を登って12時45分飯縄神社に着きました。ここは飯縄曲輪と呼ばれ、土塁の上になります。そこから尾根を戻って更に進み、引橋と呼ばれる横堀を越えて、しばしの登りで13時5分津久井城山山頂(津久井城本城曲輪)に到着。標高375m、北側の眺望がすぐれ、津久井湖、高尾山系が良く見えます。ここで昼食休憩。一段下がった展望台にはトイレもあります。

休憩後「セレモニー」。砂田さんから「城跡ハイキングの楽しみ方」のお話があり、森さんからは現在鋭意編集集中の「神奈川山岳誌」についての説明がありました。記念写真を撮影して13時45分に山頂を後にし、石垣の遺構などを

確認した後、山腹を半周する女坂と呼ばれるゆるやかな道を辿り、曲輪跡や堅堀を見ながら進



津久井城山山頂

み、行きに登った登山道に合流して、湖畔展望通路に出たところで最後の休憩を取り、展望通路をゆっくり歩いて15時20分に津久井湖観光センターに無事到着しました。トイレ休憩後の15時37分発のバスに乗り、16時10分橋本駅北口に到着し、下車後に解散となりました。

城跡ハイキングは過去2回雨天中止となっており、朝は雨が残っていて不安もありましたが、歩き始めるのと同時に雨もやみ、予定通り実施できて何よりでした。また、会員だけでなく一般公募して応募していただいた方にも参加していただきましたが、ひとりの落伍者もなく皆さん無事に歩き通せたことにほっとしています。参加者からは「久しぶりの登山であったので疲れたが楽しかった」「花や木の名前を教えてもらいながら歩けたのでよかった」等の感想をいただき、皆さん次回も楽しみにしているとのこと、主催者としては、ありがたいことです。(中島 記)

<コース概略>

橋本駅北口 BS10:30=11:10 津久井湖観光センター11:30~12:00 展望デッキ 12:07~12:45 飯縄神社 12:55~13:05 津久井城山 13:45~(女坂)~14:55 登山道入口 15:05~15:20 津久井湖観光センター15:37=橋本駅北口 BS16:10

<参加者>

会員:堀江、森(武)、森(静)、稲垣、丸山、高井(紀)、大字、込田、砂田、渡邊、中島の11名
一般応募者:7名

野草園と荻野川

自然観察会

令和5年9月30日(土) 晴

荻野運動公園内にある野草園と荻野川を歩く自然観察会です。10:00に小田急線本厚木駅中央改札口に集合し、厚木バスセンターに移動、10:15発のバスに乗り、約40分程乗って、稲荷木で下車します。ここから、10分ほどで、荻野運動公園正門につき、運動公園内に入り、小高い丘の上が、野草園です。園内を約一時間かけて歩き、オトコエシ、シュウカイドウなどおよそ16種を観察しました。

野草園管理棟内の休憩所で昼食をとり、集合写真撮影後、午後の部の開始です。丘を下ったところに、ヤマボウシの木に実がたわわになっており、皆さん興味を持って実の味見をしました。



ヤマボウシの実の味見

その後、荻野川の川沿いを歩き、ノササゲ(紫)、タンキリマメ(黄色)、マルバルコウソウ(赤と白)の花やカラムシ、ヤブマオの長い穂状の雄花、クコ、カラスウリの実等々を観察しました。広町公園で、湧水地からの池では、大きなコイが泳ぎ、カルガモの親子もいました。さらに歩を進め、山中陣屋跡史跡公園に着きました。田んぼの中の半島状に突き出た小高い低台地になっており、山中藩大久保家の陣屋があったところで、厚木市指定史跡になっています。

ここからさらに進んで、妻田薬師を探訪し、推定樹齢800年と言われる大楠を見る予定にしていたのですが、暑さや一所懸命観察した疲れなどが感じられましたので、妻田薬師はカットし、松蓮寺バス停に出て、観察会を終了としました。観察した樹木、野草類を以下に示します。

樹木：スダジイ(街路樹)、アベリア、スイフヨウ、フヨウ(白、赤)、ハギ、クサギ(花と実)、ボタンクサギ(花)、スダジイ、ハナミズキ(実)、ニシキウツギ、カツラ(甘い香り)、ヤマボウシ(実)、ユリノキ、エゴノキ(実)など

草木：(野草園内) ゲンノショウコ、キツリフネソウ、シュウカイドウ、ハナトラノオ、キンミズヒキ、ミズヒキ、ヤブラン、オトコエシ、オミナエシ、ヤマホトトギス、ヒガンバナ(赤、白)、シュウメイギク、ジャコウソウ、シモバシラ、ゼンマイ、ワラビ類など

(川沿いの道) マルバルコウソウ(赤、白)、ウリクサ、コスモス(ピンク、白、橙)、キツネノボタン、ハス(実)、ノササゲ、アオツヅラフジ、ヒヨドリジョウゴ、ヌスビトハギ、クコ(実)、カラスウリ(実)、ウワバミソウ(ズミ)、タンキリマメ、ヤマノイモ、イヌホオズキ、オオニシキソウ、コニシキソウ、カラムシ、ヤブマオ、ヤハズソウ、ヤブミョウガ、ジュズダマ、オシロイバナ、メハジキなど

野鳥：カルガモ、カワウ、モズ、アオサギ、合ガモ、カワセミなど

チョウ・トンボ：アゲハチョウ、クロアゲハ、シジミチョウ、モンシロチョウ、アキアカネ、フクラスズメ(ガ)の幼虫など(渡邊 記)



フクラスズメの幼虫(激しく体をゆすっていると)

<行程>本厚木駅中央改札口集合 10:00—(厚木バスセンターへ移動)—10:15 発半原行きに乗り—稲荷木バス停 10:53—荻野運動公園正門 11:05—野草園 11:23(園内観察/昼食) 12:50—広町公園 13:20—山中陣屋跡史跡公園 14:25—松蓮寺バス停 15:20—本厚木駅解散 15:40

<参加者>込田、富岡、丸山、森(静)、高井(紀)、

大字、細川、稲垣、渡邊の9名



野草園入口前にて集合写真

ので、ランチタイム後、続いて油壺ウォーキングコースを歩く。



諸磯湾のヨットハーバー

油壺・入江のみち **関東ふれあいの道**

令和5年10月14日(土) 晴

今年度から新しく関東ふれあいの道(神奈川県版)ハイキングPJTがスタートし、今回は、その2回目となる。三崎口駅からバスに乗り、潮の香りが漂う三崎港で下車。今回は、ここがスタート地点だ。

バス停の前に「関東ふれあいの道」の立派な説明板が立っている。これならば、進路方向に迷うこともないだろう。三崎港を出発し、まず歌舞島公園を訪問。道路沿いに説明板が立っているのだが、どこが歌舞島公園なのかははっきりしない。ちょっと高台に上がってみても歌舞島公園という標識等は、見当たらなかった。だが幸い、ここから相模湾方面を眺めると、薄っすらと富士山が見えていた。その後は、海沿いの車道を歩いていく。

小さな漁港を左に見た後、尾根を一本越えて、諸磯湾に出た。ここは、白と青で統一されたヨットハーバーの光景が美しい。残念ながら、靄ってしまった、湾の出口側に富士山の姿は見えなかった。

その後、再び尾根を一本越えて、油壺湾に出る。ここでは、陸揚げされたヨット群やヨットハーバーを眺めながら、湾沿いを進む。

坂を上がると、油壺温泉バス停に到着。これで、関東ふれあいの道 油壺・入江のみちは、終了してしまうのだが、これだけでは物足りない



油壺ヨットハーバー付近にて集合写真

さらに西へ歩いていき、Y字路を左折すると、油壺湾を見下ろすビューポイントに到着。かながわの景勝50選の一つで、その石碑「油壺湾」がある。やがて砂浜に降りると、三浦一族資料館という小さな建屋が目に入る。入場無料なので入ってみると、三浦一族の資料がパネル展示してある。NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放映時は、結構、人気があったのではないかと思えた。

砂浜や磯を歩いていく。だが、1回目の三浦・岩礁のみちのように潮の満ち引きによっては、海水が押し寄せてくるような箇所はない。途中、磯を高巻く箇所があり、その高台からは、水平線が広がっている。

磯歩きが終わると、砂浜となり、そこから丘に上がっていく道を進む。途中、新井城碑に寄り道などした後、再び油壺温泉バス停に戻ってきた。(永井記)



高台から相模湾を望む

<行程>

三崎口駅 9:22=(バス)=9:40 三崎港バス停
 9:46~10:05 歌舞島公園 10:20~10:25 見桃寺
 10:28~10:58 諸磯湾~11:02 油壺湾分岐点~
 11:16 油壺公園 11:26~11:35 油壺温泉バス停
 (ランチ・トイレ休憩) 11:57~12:10 田辺大馬
 句碑~<荒井浜>~12:18 三浦一族資料館 12:22
 ~<胴網海岸>~12:57 新井城碑 13:01~13:03
 京急油壺温泉キャンプパーク~13:12 油壺温
 泉バス停 13:35=(バス)=13:56 三崎口駅

<参加者>

森(武)、込田、稲垣、中島、高井(延)、高井
 (紀)、廣島、丸山、大字、田島、永井の 11 名

し、予定より少し遅れて茅ヶ崎城へ向けて出発
 (11 時 30 分)。幹線道路の歩道を 20 分程歩
 いて茅ヶ崎城に到着しました。



大塚遺跡にて



茅ヶ崎城にて

大塚遺跡・茅ヶ崎城・小机城

城跡ハイキング

令和 5 年 11 月 11 日(土) 曇

実質 2 回目の城跡ハイキングです。今回のコ
 ースは、今年 3 月に予定し雨天中止となり 5 月
 に延期しましたが、また雨で中止となり、今回
 ようやく実現したものです。

市営地下鉄センター北駅に 10 時集合し、10
 時 20 分に横浜市歴史博物館前でガイドボラ
 ティアの方 2 名と合流して、2 グループに別れ
 て大塚遺跡に向かいました。

大塚遺跡は弥生時代の環濠集落で、発掘調査
 後に環境保護のため全体に 1m の盛土をして、
 環濠、住居などを復元しています。ガイドボラ
 ティアの懇切丁寧な説明を聞きながら見学



茅ヶ崎城にて記念撮影

茅ヶ崎城は 15 世紀後半から 16 世紀前半頃
 に使われた城で、空堀、土塁、4 つの郭(くる
 わ)などが比較的良好な状態で保全されていま

す。城内をゆっくり巡って、広い中郭で昼食休憩。記念写真を取って 13 時茅ヶ崎城をあとにし、地下鉄センター南駅から地下鉄に乗り換え（13 時 27 分）、新横浜駅で J R 横浜線に乗り換え 14 時小机駅で下車。小机駅から 20 分程で小机城に着きました。

小机城は文献でわかる限りでは 15 世紀から 16 世紀に使用され、16 世紀には戦国大名小田



小机城 空堀

原北条氏の支配下であり、豊臣秀吉の北条攻め（1590）の際に落城し、徳川家康の関東入りの後に廃城となりました。現在は大半が横浜市の「小机城址市民の森」となっています。空堀、土塁、土橋、三つの郭などが残っていますが、特に空堀が深く見事です。空堀の底を歩き階段を登って、二の丸と呼ばれる大きな郭でしばしの休憩。櫓台の跡を見て、根小屋地区（城主などの平常時の住まい）に降り、踏切を渡って商店街を抜けて小机駅に到着しました（15 時 30 分）。ここで解散となりました。

今回は街中の小高い丘にある城跡を歩くというもので、それほどきつい登りもなく、皆さんゆっくりと城跡めぐりができたと思います。ただ、案内役の私（中島）が足腰痛で案内役を十分果たせず、参加者の皆さんに助けられて何とか歩き通せたこと、改めてお詫びと感謝を申し上げます（中島 記）。

（補足）今回は一般応募者を含めて、希望者で打ち上げ会を行いました（新横浜）。11 名参加で楽しい宴でした。

<行程>

センター北駅 10:10～10:20 横浜市歴史博物館前 10:25～10:40 大塚遺跡 11:30 ～11:55 茅ヶ崎城 13:00～13:20 センター南駅＝ 13:27～（地下鉄）～13:36＝新横浜駅＝ 13:57～（J

R 横浜線）～14:00＝小机駅 14:03 ～14:20 小机城 15:10～15:30 小机駅

<参加者>

○会員 森(武)、堀江、細川、高井(紀)、打矢、込田、渡邊、中島 8 名

○一般応募者 10 名

三浦アルプス 山行委員会

令和 5 年 11 月 18 日(土) 曇

来年度の全国支部懇談会は、神奈川支部主管の下、5 月 25 日(土)に開催される予定であるが、翌日の懇親山行の一つを三浦アルプスとしている。今回、その下見を兼ねて風早橋バス停から JR 田浦駅まで歩いてみた。

JR 逗子駅からのバス乗り場は、2 番。1 番でも風早橋を通るバス路線はあるのだが、通らない路線と混在している。

風早橋で下車し、今回は、ガイドブックに載っている葉山教会への坂道を通らず、直接仙元山に向かう階段道を選択した。

9:38、仙元山頂上に到着。今日は、残念ながら富士山の頭に雲がかかっていた。また風が強く、相模湾にも白い波が目立つ。

仙元山を出発すると、ここから三浦アルプス名物のアップダウンが始まる。



アップダウンが続くルート

仙元山から観音塚の間での大山尾根への分岐点で右折する。(直進は森戸川) その後、実教寺への分岐点では左折する。(直進は実教寺)この辺りは進路方向に注意する必要がある。

また、30 番立札でも貼紙に注意して右折する。(直進は誤り)この辺りは枝尾根が多い。

大桜のある 159m 峰からは、ロープのある急な長い下りとなる。

12:34、送電鉄塔下で昼食。ここは、南北に視界が広がる。北側にはランドマークタワーが、南側には大楠山を眺めることができた。

送電鉄塔からは比較的歩き易くなり、13:16 乳頭山に到着。ここからは、東京湾の眺めがよい。



乳頭山頂上から東京湾の眺め

13:25、乳頭山を出発。ここからの下りは、間違えやすい分岐点を 2 か所通過し、かつロープのある急な下りが連続する。

横浜横須賀道路の陸橋を渡り、田浦梅の里に出た。ここから眺めると、先ほどの乳頭山から一段と東京湾に近づいたことがわかる。



田浦梅の里にて

田浦梅の里からは遊歩道を下っていき、住宅街に出る。住宅街の中では道がわかりにくいですが、国道 16 号線に出たところで右折すれば、ルー

トは明瞭。14:46、JR 田浦駅に到着した。(永井記)

<行程>

逗子駅 9:03=(バス)=9:15 風早橋バス停 9:23~9:38 仙元山 9:44~10:46 観音塚 10:51~11:12 新沢バス停分岐~11:30 森戸林道終点分岐~12:02 大桜~12:34 送電線鉄塔下(昼食)12:53~13:16 乳頭山 13:25~13:50 田浦橋~14:06 展望台下 14:12~14:13 トイレ~14:25 田浦梅の里入口~14:46 JR 田浦駅

<参加者>

森(武)、早川、稲垣、葉上、落合、本村、出江、大字、永井の 9 名

イベント報告

長岡花火見物・八方尾根& 笹ヶ峰トレッキング 妙高高原活動

令和 5 年 8 月 2 日(水)~4 日(金)

神奈川支部と山想倶楽部共同の行事として、小笠原さんの案内で長岡の花火を見物した後、温泉のある小さなホテル『赤倉ユアーズ・イン』に泊まり、八方尾根と笹ヶ峰一周歩道のトレッキングを行った。

8 月 2 日(火) 10:30 に北陸新幹線上越妙高駅に集合、16 名が小笠原さんと高橋(聡)さんの運転するハイエースに分乗し、長岡に向かう。11:50 富寿し春日亭で昼食。12:55 新幹線に乗り遅れた大字さんを、えちごトキめき鉄道春日山駅で拾う。15:15 信濃川左岸の長岡陸上競技場に到着。フィールドにブルーシートを敷き、時々近くのスーパーAEON に涼をとりに出かけたりにして夕刻の花火打ち上げを待つ。

辺りが暗くなるころ、途中のスーパーマーケットで買ってきた弁当を食べる。19:20 長岡まつり大花火大会が、慰霊と平和への祈りを込めた白い花火で始まる。この花火大会は、もともと 1945 (昭和 20) 年 8 月 1 日の長岡空襲で亡くなった人々への慰霊と復興への願いを込めて、翌年から行われた長岡復興祭が起源で、毎年、8 月 2 日と 3 日に行われる。空は晴れてほとんど風はない。全国的な猛暑でここでも蒸し暑く、座っていても汗が流れる。観客は、座る

かシートに仰向けに寝転んで花火を鑑賞する。さすがに日本三大花火大会の一つだけあって、その迫力には圧倒された。

信濃川の広い河川敷を使って多彩で大量の花火が2時間にわたって打ち上げられる。東京の花火大会では10号（一尺）玉までしか打ち上げられないが、ここでは10号に始まって20号の玉も上がり、最後に30号（正三尺）の大玉まで上がる。正三尺玉が打ち上がると花火の拡がりは650mにもおよび、大輪の花びらが空から降ってくるようだ。また打上げ幅2kmに及ぶ復興祈願大花火フェニックスなど、この大会の花火のスケールの大きさや腹に響く爆音は現地でないと味わえず、光と色と音との饗宴に酔いしれた一夜だった。

花火大会の2日間の人出は約100万人、有料観覧席の客数は29万5千人と言われ、長岡の人口26万人をはるかに上回る人出だったことになる。主催者の長岡花火財団の今年度の事業計画によると、大会の支出は12.8億円で、内訳は花火打上費が2.5億円、会場設営費3.9億円、安全・交通対策費2.2億円、ブランド発信費1.1億円、管理費1.6億円などで、花火打上費は企業などの協賛金2.7億円で、その他の費用は観覧席販売収入等8.6億円で賄うようになっている。ちなみに観覧席は信濃川の右岸と左岸に20ヵ所あり全て有料で、2日間で32万8千席のチケットが用意された。椅子席の代金は大半が3,500円、フィールド席は一人2,000円である。観覧席代金や観光客の使う金銭が長岡市にもたらす経済効果は、相当大きなものだと言える。

21:20華やかな花火も終わり、しばらくしてから今夜の宿、小笠原さんのユアーズ・インに車で向かう。3日の1:05に到着、シャワーで汗を流して就寝。

8月3日（水）今日も晴れだ。7:30朝食、8:50に2台の車で出発。帰宅する打矢さんをしなの鉄道妙高高原駅で降ろし、9:50大望峠展望台(1055m)で、昨年支部の行事でわらび採りをした鬼伝説の一夜山や戸隠連山西岳連峰を眺める。ここからの展望が売り物の北アルプスは残念ながら雲の中だった。

10:05出発、鬼無里を通り、白馬駅で高橋文雄さんを降ろして、12:05八方尾根の黒菱駐車場(1430m)まで車で上る。そこからリフトを2台乗り継いで、12:35八方池山荘(1830m)に着く。12人が道端に咲くクガイソウ、シモツケソ

ウ、ミヤマアキノキリンソウなどの高山植物を愛でながら30分ほど山道を登り、13:20第2ケルン手前のベンチ(1930m)で昼食にする。雲が増えてきたのでここで引き返すことになり、13:40下山開始。登りと同じコースを辿り、14:40黒菱駐車場に着き車で帰途につく。



ユアーズ・イン前にて



大望峠展望台にて

帰りはオリンピック道路を小川村から長野駅に出て、川村さん・広島さんを降ろし、17:20ユアーズ・インに帰着。温泉に入浴の後、18:30から小笠原夫人心尽くしの美味しい食事をいただき、その後は各テーブルで談論風発、ようやく21:45に部屋に戻った。

8月4日(木) 晴れ。7:00 朝食。今日の当初の予定は信濃路自然歩道のトレッキングだったが、比較的アップダウンがきついので、小笠原さんの判断で笹ヶ峰トレッキングに変更になる。8:15に13人が大型ハイエース1台に乗り小笠原さんの運転で出発。8:55 笹ヶ峰グリーンハウス(1255m)に到着。そこからまた車で笹ヶ峰一周歩道入口(1280m)まで行き、高橋(聰)さんに車の番をしてもらい、9:10に12人で遊歩道を歩き始める。木々に囲まれた草地の小道をゆっくりと歩く。10:35 火打山登山道分岐から笹ヶ峰キャンプ場を経て、11:20 乙見湖笹ヶ峰ダム(1195m)に着き、休憩舎で昼食。対岸の夢見平湿原は、5月中旬ころ水芭蕉とカタクリの名所だとのこと。11:55 出発。再び木々に囲まれた爽やかな道を歩き、美しく水をたたえた清水池を経て 12:55 グリーンハウス着。13:15 出発、13:45 ユアーズ・イン。車で14:00に妙高高原駅に到着し解散した。

今回のハイライトは、何と言っても長岡花火だが、八方尾根と笹ヶ峰のトレッキングもゆったりと和気藹々の雰囲気で行われ、楽しかった。小笠原さんと廣島さんが山想倶楽部の会員であったこともあり、山想倶楽部会員の方々と和やかに交流できたことも良かった。素晴らしい企画を立て、案内や車の運転もしていただいた小笠原さん、山想会の高橋(聰)さんには感謝の気持ちで一杯です。

<参加者>

神奈川支部：打矢、大字、小笠原*、砂田、高井(延)、高井(紀)、廣島*。 *小笠原・廣島は山想倶楽部会員でもある。山想倶楽部：伊藤、川村、斉藤、下河邊、関口、高橋(聰)、高橋(文)、竹内、中瀬、吉永。計17名(高井(延)記)

全国支部懇談会に参加して

令和5年9月23日(土)・24日(日) 晴

この度、群馬支部主管の第36回全国支部懇談会に参加した。初日は、水上温泉宿「坐山みなかみ」にて講演会・懇親会が開催され、翌日、谷川岳インフォメーションセンターから一ノ倉沢出合までの往復ハイキングが行われた。

講演会は、群馬県警谷川岳警備隊長の伊藤氏による講演。群馬県内での山岳遭難の発生状況や実際の遭難救助や遭難防止活動の報告を聞く。

その後、懇親会が大広間で開催される。三国太鼓のアトラクションから始まり、根井群馬支部長、橋本会長の挨拶、阿部みなかみ町長の祝辞を戴き、桐生副会長の乾杯で懇親会がスタートした。150名強の会員が一堂に集まる光景は圧巻である。最後に支部事業委員会の宮崎委員長、次回主管の神奈川支部込田支部長の挨拶でお開きとなった。

翌日は、宿からバスに乗り、一ノ倉沢出合までのハイキング(120名)に参加。一ノ倉沢出合では、快晴の下、記念撮影。まだ紅葉には早かったが、素晴らしい眺めを堪能した。

今回、来年の全国支部懇談会の予習という面もあり、参加したが、宿のロビーの広さ、宴会場のスペース等の確認、また翌日のハイキング時でのバスへの誘導等、スタッフ確認事項の面で非常に参考になった。(中島 記)



一ノ倉沢の眺め

<参加者>

込田、森(武)、森(静)、長島、稲垣、中島の6名

南関東三支部懇親山行

令和5年11月10日(金) 曇一時雨

東京多摩支部、埼玉支部、神奈川支部の三支部で企画された南関東三支部懇親山行がコロナ禍明けの今年、4年ぶりに神奈川支部主催で

開催された。

コースは、神奈川県北部(相模原市緑区)の日連アルプスと芸術の道の2つのコースを用意した。

・日連アルプス

標高400m前後の低山を中心とする山並みで、今回は、それに鉢岡山を加えた。住宅街を抜け、登山口を出発したあたりから雨が降り出し、宝山、日連山は雨中での登頂となったが、その後、奇跡的に雨が止み(天気予報では午後から雨)、その結果、予定通り杉峠から鉢岡山への往復ルートも踏破するなど、快適な山行となった。特に峰山頂上では、ガスと連なる山並みが広がり、水墨画のような光景が見られた。

・芸術の道

昭和の終わりから平成の初めにかけて、「ふるさと芸術村構想」の下、30作余りの野外環境アート作品が造られた。30余年経った今でもそのアート作品は健在である。代表的な作品は、「山の目」や「緑のラブレター」で、特に後者は、中央高速や中央線からも眺めることができる。今回、それらを鑑賞しながら藤野の名倉地区を散策した。

歩き始めに雨に降られたが、その後は、雨が止み、順調に歩くことができた。

・懇親会

両者の山行終了後、藤野駅前の居酒屋「風里」にて、20名が参加した。込田支部長の歓迎挨拶から始まり、野口東京多摩支部長、大山埼玉支部長のご挨拶を戴き、宮崎元副会長のご発声で乾杯。久々に他支部の方々との交流の場が開かれ、いろいろと興味深い話(イベントや課題等)を聞かせて戴き、大変有意義な時間となった。(永井 記)



鉢岡山頂上にて



懇親会にて

<行程>

・日連アルプス

JR 藤野駅 9:33~10:14 登山道入口~10:51 宝山 10:59~11:07 日連山 11:09~11:26 杉峠(昼食) 12:06~12:34 鉢岡山 12:52~13:15 杉峠~13:32 峰山 13:50~13:58 日連金剛山 14:02~14:33 金剛山バス停~15:05 JR 藤野駅

<参加者>

東京多摩支部 14名。埼玉支部 3名。

神奈川支部 森(武)、込田、稲垣、高橋、志波、永井の6名

・芸術の道

JR 藤野駅 10:13~11:15 葛原神社(昼食) 11:40~13:20 京塚山~13:32 緑のラブレター 13:37~14:06 藤野駅

<参加者>

東京多摩支部 2名。

神奈川支部 早川、葉上、長島、森(静)の4名

役員会報告

7月役員会

日時：令和5年7月20日（木）：19:00～20:35

場所：かながわ県民センター709会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、森、田島、中島

オンラインでの参加：早川、大槻、長島、落合、渡辺、葉上

オンラインで参加の監事：砂田

委任状による出席：柴山、青木、植木、出江

[報告事項]

(1)連絡事項

・2023年度の支部特別事業補助金に関して、本部から送金した旨の報告があった。永井から会計担当の青木に入金済みか確認をとることにした。

(2)山行報告

・青森支部30周年記念の行事に参加した打矢会員からの報告について紹介があった。

[審議事項]

(1)年間計画

・今後の計画（以下の審議事項参照）について確認した。

(2)山行計画

・8/2～8/4に妙高赤倉温泉をベースとして長岡花火大会見学と白馬散策などを実施予定。参加希望者は1名減で6名+小笠原リーダー。山想クラブとのジョイントで実施する。

・城跡ハイキングを9/9に津久井城跡で実施予定。一般公募も行う予定。留守本部は現地対応とし、込田と渡辺が担当。

・自然観察会として、9/30に厚木市の野草園と荻野川で実施予定。留守本部は次回決める。

(3)その他

・永井より、県岳連から協力要請あり。8/11の「山の日」に開催する行事への協力依頼：込田・田島・渡辺、11/5の県民登山への協力依頼：参加可能の方を募る。

・田島より、当支部が幹事役となる南関東3支部懇談会の開催要項について提案があった。大筋で了承されたが、集合時間の見直しなどの詳細については田島・永井に一任した。詳細決まり次第、東京多摩支部と埼玉支部に平日開催とした理由を添えて案内するとともに、支部内に周知することにした。

・中島より、当支部主管で開催予定の全国支部懇談会とこれに合わせて実施する第1回岡野

金次郎碑前祭の実施案が説明された。開催日が他の行事と重複するため、5/25・26に変更することにした。その他の詳細を9月役員会での承認を得て、9/23に開催される今年の懇談会（群馬支部主管）の席でお披露目し、多数の参加を呼び掛けることにした。また、実施体制についても早急に検討することを確認した。

・葉上より、7/5に開催された古道プロジェクトの議事内容の概要について説明があった。

・本部の支部担当理事より依頼のあった会員増に関するアンケートの内容について説明があった。回答期限は7/31。

・長島より、本部の総務担当常務理事に就任したので、支部で担当してきた支部報の業務が出来なくなった旨の申し出があった。後任については支部長が個別にあたって依頼することにした。

9月役員会

日時：令和5年9月20日（水）：19:00～20:05

場所：かながわ県民センター701会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、森、田島、中島

オンラインでの参加：大槻、早川、落合、渡辺、長島、

委任状による出席：青木、柴山、廣岡

[報告事項]

(1)連絡事項

・2023年度の支部特別事業補助金に関して、本部から17万円の入金があったことを確認した。

・2023年度の支部交付金に関して、当支部は22万6千円であることを確認した。

(2)山行報告

・8/2～8/4に妙高赤倉温泉をベースとして長岡花火大会見学と白馬散策などを実施。参加者は7名で、他に山想クラブが10名。参加者の高井延幸氏から支部報に掲載する原稿が寄せられている。

・9/9に城跡ハイキングを津久井城跡（津久井城山）で実施。参加者は、支部会員11名、一般参加7名。

(3)その他

・8/11の弘法山で県岳連主催の山の日イベントにスタッフとして込田・田島・渡辺が参加。
・2024/11/17に県岳連創立70周年記念行事を開催。詳細はこれから。

・11/5に大倉～三ノ塔で県岳連主催の県民登山が実施される。スタッフとして参加可能な方は永井まで連絡のこと。

[審議事項]

(1) 年間計画

・かながわ山岳誌の出版は1月末の予定。記念講演会は3月の第1または第3の土曜日を予定。

(2) 山行計画

・自然観察会として、9/30に厚木市の野草園と荻野川で実施予定。留守本部は現地対応とし、込田と渡辺が担当。なお、予備日として10/1をあてる。

・関東ふれあいの道ハイキングとして、10/14に三崎口駅＝(バス)＝三崎港バス停～歌舞島公園～見桃寺～諸磯湾～油壺湾分岐点～油壺公園～油壺温泉バス停～田辺大隅句碑～荒井浜～三浦一族資料館～<胴網海岸>～<胴網海岸>～三浦道寸墓～京急油壺温泉キャンプパーク～油壺温泉バス停＝(バス)＝三崎口駅を実施予定。留守本部は、渡辺と込田(現地対応)が担当。

・城跡ハイキングの次回(11/11)は当初予定していた湯河原城山から、小机城に変更することになった。

(3) その他

・込田と中島より、来年実施する全国支部懇談会と岡野金次郎碑前祭の案内状と実施体制について提案があった。審議の結果、山行ハイキングに関する文言を修正することにした。その他は原案で作業を進めることにした。

10月役員会

日時:令和5年10月19日(木):19:00～21:00

場所:かながわ県民センター703会議室

出席者:込田支部長、大槻副支部長、永井事務局長、森、中島、落合、柴山、出江

オンラインでの参加:早川、葉上、植木、渡辺
オンラインで参加の監事:砂田

委任状による出席:田島、長島、青木、廣岡

[報告事項]

(1) 連絡事項

・晩餐会の申し込みと会費納入が原則として支部単位で行うことになった。

(2) 山行報告

・自然観察会として、9/30に厚木市の野草園と荻野川で実施。参加者は9名。

・関東ふれあいの道ハイキングとして、10/14に三崎口駅＝(バス)＝三崎港バス停～歌舞島公園～見桃寺～諸磯湾～油壺湾分岐点～油壺公園～油壺温泉バス停～田辺大隅句碑～荒井浜～三浦一族資料館～<胴網海岸>～<胴網海岸>～三浦道寸墓～京急油壺温泉キャンプパー

ク～油壺温泉バス停＝(バス)＝三崎口駅を実施。参加者は11名。一般の参加はなかった。

(3) その他

・11/5に大倉～三ノ塔で県岳連主催の県民登山が実施される。スタッフとして参加可能な方は永井まで連絡のこと。

[審議事項]

(1) 年間計画

・かながわ山岳誌の記念講演会は3/23(土)の午後開催。

(2) 山行計画

・3支部山行:藤野駅を起点に日連アルプスと芸術の道の2コースで実施予定。現時点での参加申し込みは、当支部が12名、東京多摩支部が19名、埼玉支部が4名。留守本部は落合と中島が担当。

・城跡ハイキングとして、11/11にセンター北駅～横浜市歴史博物館～大塚遺跡～茅ヶ崎城(昼食)～センター南駅＝横浜市営地下鉄＝新横浜駅＝JR横浜線＝小机駅～小机城～小机駅を実施予定。留守本部は現地対応とし、込田と渡辺が担当。

・山行委員会の再開が承認されることを前提として、11/18に逗子駅＝バス＝風早橋BS～仙元山～観音塚～乳頭山～田浦梅林展望台～田浦駅を実施予定。この山行は委員会再開の第1弾であるとともに、来年の全国支部懇談会の山行の下見も兼ねて実施する。なお、11/18が雨天の場合には11/19または11/25に延期する。

・来年1/20～1/22に妙高赤倉温泉をベースとしたスキー(今回はテレマークスキーの講習会も実施予定)山行の提案があり承認された。幹事は出江が担当。

(3) その他

・中島より、全国支部懇談会と岡野金次郎碑前祭に関しての10/6開催の実施本部の打ち合わせ内容について報告があった。

・込田より、上記イベントの担当者に関する提案があった。出席者から多くの問題点が指摘されたため、この案は保留として、実施本部の会合でこれらを整理していくことを確認した。

・本部から、JACが実施している碑前祭の一覧表作成に関して、岡野金次郎祭も記載したいと要請があり、中島が対応した旨の報告があった。

・森より、休眠状態の山行委員会を再開したいとの提案があり、安全登山に留意することを前提として承認された。

・晩餐会翌日の山行に関しても、原則として支部単位での申込になる旨の報告があった。

・かながわ山岳誌の出版記念講演会を3/23に

実施する。講師は、山溪の萩原氏・山岳気象予報士の猪熊氏・プロジェクトメンバーを予定している。会場は現在探している。

- ・支部総会の日程について協議した。
- ・葉上より、古道調査の内容をHPで閲覧できるようにした旨の報告があった。

11月役員会

日時:令和5年11月16日(木):19:00~20:45

場所:かながわ県民センター709会議室

出席者:込田支部長、大槻副支部長、永井事務局長、森、田島、中島、出江

オンラインでの参加:早川、渡辺、葉上

オンラインで参加の監事:砂田

委任状による出席:落合、長島、植木、青木、田中、柴山、廣岡

[報告事項]

(1)連絡事項

- ・県岳連主催の県民登山(11/5)に関して、今回はJACからの参加はなく、早川が日本赤十字として参加した。
- ・県岳連へ岡野金次郎碑前祭への名義後援を依頼したところ、承認した旨の連絡があった。

(2)山行報告

- ・11/10の南関東3支部山行は、藤野駅を起点に日連アルプス(23名)と芸術の道(6名)の2コースで実施した。支部別の参加者は、当支部が10名、東京多摩支部が16名、埼玉支部が3名。山行後の懇親会には20名が参加。
- ・11/11に城跡ハイキングとして、センター北駅~横浜市歴史博物館~大塚遺跡~茅ヶ崎城(昼食)~センター南駅=横浜市営地下鉄=新横浜駅=JR横浜線=小机駅~小机城~小机駅を実施。参加者は、会員が8名、非会員が10名。

[審議事項]

(1)年間計画

- ・2024年5月までの行事などの日程を確認した。

(2)山行計画

- ・山行委員会主催で、11/18に逗子駅=バス=風早橋BS~仙元山~観音塚~乳頭山~田浦梅林展望台~田浦駅を実施予定。留守本部は込田と中島が担当。
- ・関東ふれあいの道の第3弾として、12/9に三崎口駅=(バス)=矢作入口BS~砂浜入口~<和田海水浴場>~ソレイユの丘入口~<ソレイユの丘>~ソレイユの丘出口~荒崎BS~荒崎弁天島~潮騒の丘~荒崎BS~長井漁港~荒崎入口~高等工科学学校前~長井BS=(バス)

=三崎口駅を実施予定。留守本部は葉上と渡辺が担当。

- ・山行委員会主催で、12/15に秦野駅北口=(バス)=蓑毛~蓑毛大日堂~常夜灯~蓑毛越~阿夫利神社下社~大山寺~コマ参道ねぎし旅館(昼食)~ケーブルBS=伊勢原駅を実施予定。なお、昼食は支部の忘年会を兼ねる。留守本部は渡辺と中島が担当。

- ・城跡ハイキング第3弾として、1/13に小田原駅西口~城山交差点~税務署西交差点~総構城下張出~山ノ神堀切~稲荷森~小峰御鐘ノ台大堀切東堀~三の丸外郭新堀土塁~小田原城本丸広場(昼食休憩)~天守閣見学~常盤木門~銅門~馬出門土橋~幸田口門跡~北条氏政・氏照の墓所~小田原駅東口を実施予定。留守本部は次回決める。

- ・妙高赤倉温泉をベースとしたスキー(今回はテレマークスキーの講習会も実施予定)山行は来年1/20~1/22の予定であったが、宿泊先の都合で1/27~1/29に変更することにした。すでに支部会員には募集案内を行っている。

(3)その他

- ・永井より、晚餐会(12/2)と晚餐会山行(12/3)の当支部内の参加申し込みについて報告があった。現時点での申込は、前者が13名、後者が2名。
- ・永井より、来年度の支部総会を5/18に実施することが提案され、承認された。総会後に5/25・26に実施する全国支部懇談会の最終打ち合わせを行うことになった。
- ・永井より、全国支部懇談会と岡野金次郎碑前祭実施に向けた実行委員会の設置とその組織体制が提案され、承認された。さらに、実施に向けた課題についての説明があり、意見交換した。案内状を次回決定することを確認した。
- ・森より、かながわ山岳誌の進捗状況の説明があった。また、出版後の取り扱いについて提案があり承認された。
- ・永井より、会議室の通信事情が悪いため、オンラインでの参加を縮小していきたいとの提案があった。しかしオンラインのメリットもあるため、当面は通信事情が悪いことを前提として併用していくことにした。
- ・来年度は役員改選の時期であり、これに関する意見表明があった。今後検討していくことにした。

支部会員動静

・退会：12613 望月公子、16884 玉木美智子

今後の予定

役員会

12月21日(木)19時～ 708 会議室
1月18日(木)19時～ 709 会議室
2月15日(木)19時～ 702 会議室
3月21日(木)19時～ 710 会議室
於：かながわ県民センター

イベント(城跡ハイキング)

1月13日(土) 小田原城
3月9日(土) 八王子城

イベント(関東ふれあいの道ハイキング)

12月9日(土) 荒崎・潮騒のみち
2月3日(土) 佐島・大楠山のみち

イベント(自然観察会)

2月17日(土) 相模原貯水池と相模原公園

イベント(その他)

12月2日(土) 晚餐会
12月3日(日) 晚餐会山行(奥武蔵/天覧山)
12月15日(金) 忘年山行(蓑毛越)
1月27日(土)-29日(月) 赤倉スキーの集い
3月23日(土) かながわ山岳誌講演会
5月18日(土) 支部通常総会
5月25日(土)・26日(日) 全国支部懇談会

来年度の支部通常総会は、下記の予定です。

日時：2024年5月18日(土)

13:30～15:15

場所：かながわ県民センター

301 会議室

なお、総会后、全国支部懇談会に対する事前打合せを予定しております。(15:30～16:50)

あとがき

支部報の発行が遅れて誠に申し訳ございません。心よりお詫び申し上げます。

現在、城跡ハイキング、関東ふれあいの道などの新規企画が実施されておりますが、今後、山行委員会にて新たな山行・イベントを企画してまいります。乞うご期待下さい。

また、来年5月25日・26日には全国支部懇談会が神奈川支部主管で開催予定です。支部の皆様におかれましては、当日だけに限らず、いろいろとサポートして頂ける方々を募集しております。ご協力頂ける方は、メールにて事務局/永井までご連絡して頂ければ幸いです。宜しくお願い申し上げます。

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島、永井、葉上

令和5年12月1日